

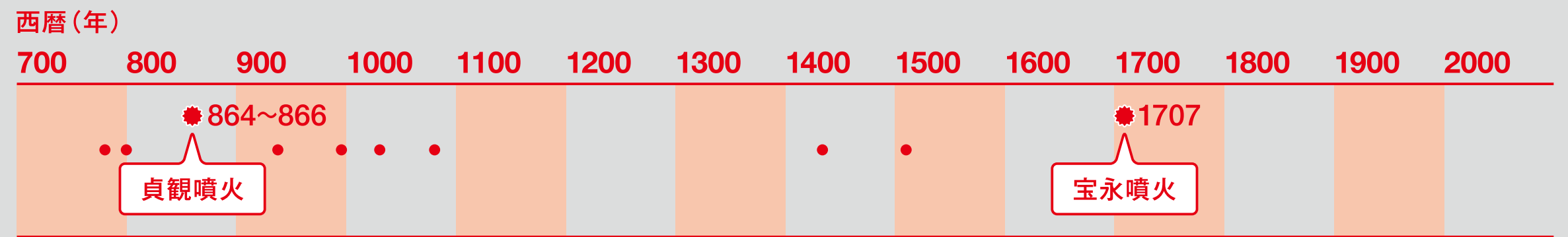
富士山噴火の歴史

Eruption History of Mount Fuji



富士山は4つの段階を経て、今の姿になった。数十万年以上前の先小御岳に始まり、小御岳、古富士、そして約1万8千年前からの噴火活動で現在の新富士が形成された。富士山の長い噴火の歴史の中で記録が残る噴火はわずかだが、864~866年の貞観噴火では、大量の溶岩が流出し、現在の富士五湖を形成した。1707年の宝永噴火では、大量の火砕物が噴出し、遠く房総半島まで達した。

歴史時代の富士山噴火*1



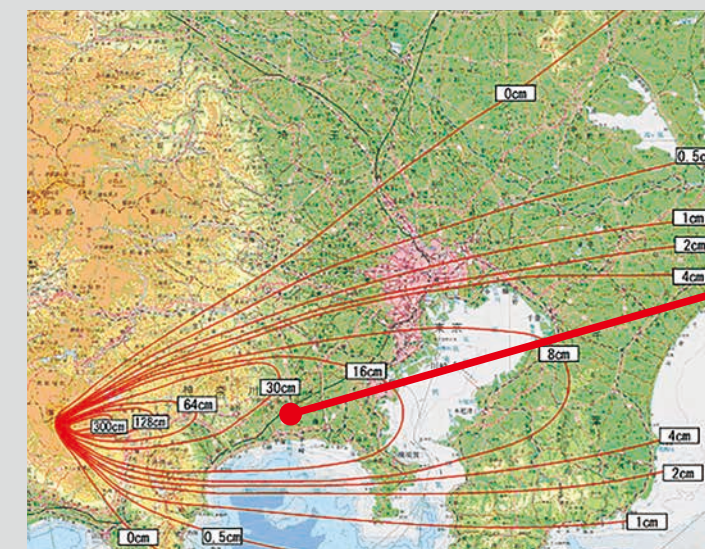
貞観噴火の溶岩流が「せのうみ」を埋め、富士五湖をつくる*2



噴火開始から約2年



宝永噴火による降灰分布図*3



*1 小山真人 富士山の歴史噴火総覧(2007年)を加工して作成
*2 鈴木雄介 提供資料を加工して作成
*3 富士山ハザードマップ検討委員会「宝永噴火(1707年)時の実績の降灰分布」
写真提供:上 小林淳、下 笠間友博